

ESG戦略

オリンパスのマテリアリティ

オリンパスは、誠実で透明性のある企業であり続けるために、規制当局やステークホルダーと協力して、強固で持続的な組織の構築に努め、ヘルスケア業界およびESGを主導する企業になるべく、「私たちの存在意義」である「世界の人々の健康と安心、心の豊かさの実現」に貢献していくことを目指しています。ESGの推進は、経営戦略の中でも重要な取り組み項目の一つとして位置づけており、これまで以上にESG戦略と経営戦略・事業戦略・機能戦略との親和性・一貫性を強化してまいります。

「Sustainable Olympus」と「Sustainable Society」の両立を目指して

オリンパスは、「社会に向けて新しい価値を創造する」という創業の精神を受け継ぎ事業活動を展開してきました。この創業の精神をベースに、「私たちの存在意義」の実践を通じて、地球・社会の持続的な開発・発展に貢献することで、オリンパス自身も持続的な成長や価値創造が実現できると考えています。事業活動によって生み出した利益を、経営の指針に沿って新たな価値創造のために再投資し、さらなる利益を創出するというサイクルを構築することで持続可能な成長を目指しています。

地球・社会の持続的な開発・発展に貢献するためには、お客さまや、患者さんとそのご家族、お取引先様、株主・投資家の皆さま、従業員、さらには地域社会、国際社会といったステークホルダーと対話し、そこからオリンパスへの要請・期待を適切に捉えることが重要だと考えています。企業を取り巻く環境が日々変化し、さらに社会も大きく変化しています。医療機器企業としてさまざまな社会課題解決に取り組み、ステークホルダーの期待に応えていくことは、サステナビリティにおける大きな目標の一つです。

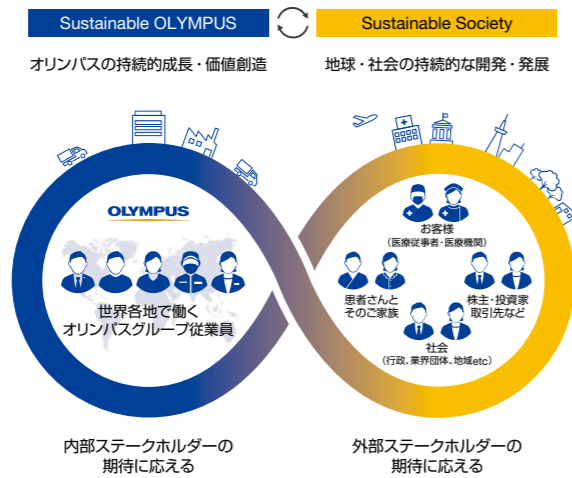
Sustainable Olympus: 私たちの存在意義

医師・医療機関との価値共創によって患者さんのQOL向上に貢献

オリンパスの医療事業は、医師の「胃がんを早期に発見、診断して、胃がんによる死亡率を低下させたい」という思いに応える、世界初の実用的な胃カメラの開発から始まりました。それから現在に至るまで、オリンパスは医師との二人三脚で、内視鏡をはじめとする医療機器の開発に取り組んでいます。

優れた製品・技術の提供や、それを安全・適正に使用するための医療従事者へのトレーニングは、疾患の「早期診断」や、患者さんの負担を少なくする「低侵襲治療」につながり、患者さんのQOL (Quality of Life: 生活の質) 向上に貢献しています。

オリンパスは、これからも医療従事者との協働を通じて医療機器のイノベーションに挑戦し、医療アウトカムと医療アクセスの向上を目指します。



Sustainable Society: 持続可能な開発目標 (SDGs) への貢献

事業活動とSDGsとの関連性を紐解き、貢献すべき目標を設定

オリンパスは、事業活動を通じて世界が抱える環境・社会課題の解決に取り組み、SDGs*1が目指す持続可能な社会の実現に貢献していきます。そのために、自社の事業活動とSDGsとの関連性を紐解き、自社の事業活動と関わりが深い13の目標を特定しました。中でも、事業を通じて最も貢献度の高いSDGsは目標3「すべての人に健康と福祉を」であり、グローバル・メドテックカンパニーとして「健康」を中心に、複数の社会課題の解決に貢献していきます。

*1 SDGs (Sustainable Development Goals): 2030年までに持続可能な世界を実現するために、国連によって定められた国際社会共通の目標

オリンパスのマテリアリティ

経営戦略の策定と連動して、2023年3月期にESG戦略の見直しを行いました。マテリアリティの見直しにおいては、新たにステークホルダーの皆さまのご意見をお聞きし、また社会の期待値・要求事項やメドテック業界における動向、サステナビリティの観点でのリスクと機会の分析などを踏まえ、「6つの重要領域 (Focus Area)」と、その下に「25項目の重要課題 (Materiality Topics)」を特定しました*2。この「25項目の重要課題」を特定するプロセスの中で、「ステークホルダーにとっての重要性」と「オリンパスの事業へのインパクト (オリンパスにとっての重要度)」の2つの軸を用いてマッピングを行い、「トッププライオリティ」「ハイプライオリティ」「その他」の3

段階に優先順位付けをしています。特に重要度の高いトッププライオリティに位置づけたマテリアリティ項目についてはKPIを設定しており、達成に向けた進捗を管理していきます。また、ESG委員会や取締役会等において、進捗状況や新たな取り組みについて議論してまいります。

*2 2020年3月期に4つのマテリアリティを特定して以降、2022年3月期に「社会と協調した脱炭素・循環型社会実現への貢献」を加え、5つのマテリアリティとして見直しを行いました。2023年3月期の見直しにおいては、従来の「6つのESG領域」と「5つの重要課題 (マテリアリティ)」を、「6つの重要領域 (Focus Area)」に再編しました。

STEP 01

社会課題の把握

前回の特定以降のサステナビリティの潮流変化に関する外部調査、およびESGに関連する各種フレームワーク、ESG調査の評価項目などから社会課題をリスト化

STEP 02

ステークホルダーにとっての重要度で社会課題を優先付け

医療機関、政府機関、投資家、ESG評価機関などにインタビューを実施。ステークホルダーにとっての重要度の観点から課題を優先付け

STEP 03

オリンパスにとっての重要度で社会課題を優先付け

オリンパスの事業へのインパクトの観点から課題を優先付け

STEP 04

マテリアリティ特定

グループ経営執行会議および取締役会での審議等のプロセスを経て、マテリアリティを特定 (経営戦略の一部として提案され承認)。加えて、特定した社会課題を2軸の観点から優先順位を付けたマテリアリティマトリックスを作成

マテリアリティマトリックス

		① トッププライオリティ (8項目)		② ハイプライオリティ (9項目)	
ステークホルダーへの重要度	High	<ul style="list-style-type: none"> 事業活動倫理とコンプライアンスの徹底遵守 サプライチェーン管理上における人権尊重へのコミットメント Scope1/2での脱炭素への取り組み Scope3での脱炭素への取り組み 水資源と廃棄物の適切な管理 気候変動リスクへの対応 コーポレートガバナンスと情報開示の透明性確保 	<ul style="list-style-type: none"> 医療アクセスおよび医療公平性改善への貢献 より良い医療効果を実現するイノベーションへの取り組み 製品、サービス、ソリューションの品質と安全性の確保 サプライチェーンのリスク軽減と耐性の確保 労働安全衛生の確保と人権尊重への取り組み 従業員の能力開発とエンゲージメントの向上 ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン 循環型社会実現へ貢献する製品ライフサイクル管理 		
	Mid	<ul style="list-style-type: none"> 倫理性・誠実性に基づいたマーケティング活動 環境関連の情報開示の透明性確保 多様なステークホルダーとの対話 	<ul style="list-style-type: none"> リスク管理・危機管理の強化とリスク認識を意欲した企業文化の醸成 取締役会における多様性の確保 		
	Low	<ul style="list-style-type: none"> 企業市民活動および慈善活動 税の透明性 	<ul style="list-style-type: none"> 早期発見・早期治療の重要性に対する認知度向上への取り組み プライバシー、情報セキュリティ、サイバーセキュリティの保全 		
		Low	Mid	High	
		当社事業への影響度			

ESGの推進体制

ESGへの取り組みを強化するため、2023年3月期にグループレベルでサステナビリティ戦略推進体制を再検討し、2023年4月に新たなサステナビリティ・ガバナンス体制を構築しました。このガバナンス体制では、ESG担当役員をオーナーとし、各事業・各機能部門の責任者などをメンバーとする「ESG委員会」を設置しました。ESG委員会は、サステナビリティ戦略の遂行、マテリアリティに関する重要施策の審議、目標に対する進捗のモニタリングなどを実施しています。さらに、ESG委員会の傘下に環境や人権などテーマ別のワーキンググループを設け、機能横断的に取り組む必要のある施策の検討や情報共有を行っています。ESG担当役員はグループ経営執行会議と取締役会に対して、サステナビリティ戦略の実施状況や活動の成果・課題などを報告します。グループ経営執行会議と取締役会の指示・助言のもと、適切にサステナビリティ戦略を実行しています。



詳しくはWEBをご覧ください : サステナビリティに対する考え方・推進体制: <https://www.olympus.co.jp/csr/esp/>
ESG戦略: <https://www.olympus.co.jp/csr/strategy/>

6つの重要領域 (Focus Area)

1 医療機会の幅広い提供
およびアウトカムの向上



医療分野は、当社が最も強みを発揮できる社会貢献の領域と認識しています。より高い医療成果につながるイノベティブな製品の提供、医療従事者へのトレーニング機会の提供などを通じて社会への貢献を目指します。

重要課題

- トッププライオリティ**
- 医療アクセスおよび医療公平性改善への貢献
- ハイプライオリティ**
- より良い医療効果を実現するイノベーションへの取り組み
 - 早期発見・早期治療の重要性に対する認知度向上への取り組み
- その他**
- 企業市民活動および慈善活動

KPI



2024年3月期実績

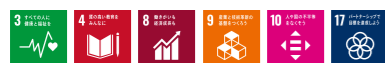


関連情報

統合レポート2024 [See page 52](#)

サステナビリティ:
医療水準の向上
<https://www.olympus.co.jp/csr/social/medical-standards/>

SDGs



2 コンプライアンスおよび
製品の品質安全性への注力



医療機器を提供する企業として、最優先すべきは「患者さんの安全」です。腐敗防止などのコンプライアンス遵守、および製品の品質安全性確保のための各国法規制に確実に適合するように努めています。

重要課題

- トッププライオリティ**
- 製品、サービス、ソリューションの品質と安全性の確保
- ハイプライオリティ**
- 事業活動倫理とコンプライアンスの徹底遵守
 - プライバシー、情報セキュリティ、サイバーセキュリティの保全
- その他**
- リスク管理・危機管理の強化とリスク認識を意識した企業文化の醸成
 - 倫理性・誠実性に基づいたマーケティング活動
 - 製造技術改善に向けたイノベーションへの取り組み
 - 税の透明性

KPI



2024年3月期実績

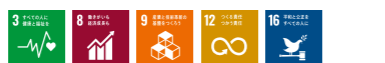


関連情報

統合レポート2024 [See page 29, 32, 90](#)

サステナビリティ:
コンプライアンス
<https://www.olympus.co.jp/csr/governance/compliance/>
製品責任
<https://www.olympus.co.jp/csr/social/product-responsibility/>

SDGs



3 責任ある
サプライチェーンの推進



医療機器の安定的な提供は、社会における医療の安定的供給に不可欠です。製品の安定的提供の責任を果たすと同時に、サプライヤーと共に、環境や人権などの社会課題にも取り組んでいきます。

重要課題

- トッププライオリティ**
- サプライチェーンのリスク軽減と耐性の確保
- ハイプライオリティ**
- サプライチェーン管理上における人権尊重へのコミットメント

KPI



2024年3月期実績

- 大手リスクソリューションプロバイダーを活用して、サプライチェーンの可視化をグローバルに進め、リアルタイムでリスクを監視、特定する仕組みを導入。
- BCPの整備やESGへの対応の評価もリスク管理の対象とするこの取り組みを進め、厳しくなっている各種法令・規制・標準等の遵守とサプライチェーンのレジリエンスを一層強化していく。

関連情報

統合レポート2024 [See page 71](#)

サステナビリティ:
調達
<https://www.olympus.co.jp/csr/social/procurement/>

SDGs



4 健やかな組織文化

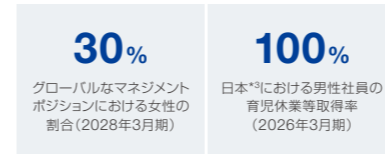


当社が目指す健やかな組織文化とは「私たちの存在意義を実現するため、従業員一人ひとりがベストな状態でパフォーマンスを発揮できる文化」と定義し、その実現に向けたさまざまな施策に取り組んでいます。

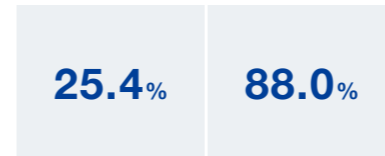
重要課題

- トッププライオリティ**
- ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの推進
- ハイプライオリティ**
- 従業員の能力開発とエンゲージメントの向上
 - 労働安全衛生の確保と人権尊重への取り組み

KPI



2024年3月期実績



関連情報

統合レポート2024 [See page 62](#)

サステナビリティ:
ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン
<https://www.olympus.co.jp/csr/social/diversity/>

SDGs



*3 オリンパス株式会社が対象

5 社会と協調した脱炭素・
循環型社会実現への貢献



気候変動は地球環境を脅かす重大な課題であるとともに、当社の事業活動にも影響を及ぼす課題であると認識しています。今後カーボンニュートラルの達成に向けて、各種取り組みを推進してまいります。

重要課題

- トッププライオリティ**
- Scope1、2カテゴリでの脱炭素への取り組み
 - Scope3カテゴリでの脱炭素への取り組み
 - 循環型社会実現へ貢献する製品ライフサイクル管理
- ハイプライオリティ**
- 水資源と廃棄物の適切な管理
 - 気候変動リスクへの対応
- その他**
- 環境関連の情報開示の透明性確保

KPI



2024年3月期実績



関連情報

統合レポート2024 [See page 68](#)

サステナビリティ:
環境
<https://www.olympus.co.jp/csr/environment/>

SDGs



6 コーポレートガバナンス



当社は長年にわたりステークホルダーの皆さまから信頼される企業であり続けるために、コーポレートガバナンスの強化に注力してきました。当社がサステナブルであるために極めて重要な課題と認識し、今後も継続して強化に努めます。

重要課題

- トッププライオリティ**
- コーポレートガバナンスと情報開示の透明性確保
- その他**
- 多様なステークホルダーとの対話
 - 取締役会における多様性の確保

KPI



2024年3月期実績

- 「リスクマネジメント及び危機対応方針」および関連規程に基づきリスクマネジメントを実施。その活動結果をグループ経営執行会議および取締役会へ報告

関連情報

統合レポート2024 [See page 76](#)

サステナビリティ:
コーポレートガバナンス
<https://www.olympus.co.jp/company/governance/>

SDGs



*1 CRC:Colorectal cancer(大腸がん)

*2 SASB基準:SASB(Sustainability Accounting Standards Board:米国サステナビリティ会計基準審議会)が公開した非財務情報公開の標準化に向けた基準。業種別の開示スタンダードが策定されている